

どんな字から教えたらいいのでしょうか。具体的なものから教えるのがいいのですが、実際に字を選ぶ基準は、とにかく幼児が好きそうな漢字を選ぶことです。

記憶の原理は、まず「関心」、そして「反復」です。関心のないものに対して、子どもは絶対に記憶することはないのです。これは大人でも同じです。

虫の名前などもいいでしょう。具体的にそのものがわかっているし、興味があります。蝉 蜂 蝶 蟻 蛙 蛇……こういう字を覚えていくと、それぞれの漢字から「虫」という共通項を見つけます。

そこで「虫とは何か」を教えてやればいいのです。ここまでくると、蜘蛛という字もむずかしくはないのです。

花の名前もいいかもしれません。薔薇という字は書こうと思うからむずかしく思うのです。これは大人だってなかなか書けません。でも読むだけなら、これくらい複雑で特徴のある字なら覚えやすく忘れないものです。

「雲」とか「雪」という字もいいでしょう。雲はさわることができなくても、外へ出ればすぐ見えます。雪が降ったら、ぜひ手で触れさせてくださ

い。

雲と雪 「雨」という共通部分を見つけ出し、この“あめかんむり”は天気とか空に関係あるものだということを知れば、これだけで「霜」「霧」「霰」など、いろいろな字を推理することができるのです。

この本の中でも何度もくり返していますが、子どもは自分で理解をしたがっています。本当は何でも自分でやりたいのです。ですから親が何もかも教え込んでしまうのではなく、自分で知ることの喜びを味わえるような教え方こそが望ましいといえます。

ポイント:ものには順序があります。いきなり本を読めとか漢字を見せてもダメです。自分からやるように仕向けることが何よりも大切です。私は自分の子どもには五歳くらいから漢字を教えました。幼稚園の間に小学校五、六年生程度の本だったらスラスラ読んで理解できたようです。